

ひかりのこ

8,9月園便り

聖ミエル幼稚園
2020年8月17日

月主題：ゆったりと、友達とともに

「力を合わせて」

8月に入り、暑い日が続きましたが、皆様お元気でしたか。あっという間の夏休みが終わり、今日から2学期が始まります。

1学期終了後すぐに行われた、年長さんのお泊り会は、コロナウィルスの感染防止を考え、例年とは色々活動内容を変えました。

まず、子どもたちが寝る場所ですが、いつもなら、ホールに全員がお布団を敷いて寝るのですが、今年は、各保育室を使いグループごとに休みました。また、例年なら、夕食後、園バスに乗って「夜のお散歩」と題して、JRタワーの展望室に出かけるのですが、今年は、幼稚園内で楽しい会を持つことにしました。

絵本の「めっきらもっきら…」のモンモンビッコたちが現れて、お宝をくれたり、園庭で花火をしたり、夜の礼拝堂で、厳かにお休みの礼拝をしたりしました。いつもとは違うお泊り会でしたが、絵本の世界を楽しんだり、ゆったりとお祈りをして、かえってミカエルらしい豊かなお泊り会となりました。

2学期もコロナウィルスはまだまだ収束しませんが、子どもたちは、自然の流れのままに成長をしていきます。どんな状況にあっても、私たち保育者は、子どもたちの成長の芽を摘んではなりません。できうる努力と知恵を持って、子どもたちがワクワクしながら大きくなっていく、そんな保育を目指していきたいと思えます。

至らないこと、我慢しなければならぬこともあるとは思いますが、保護者の皆様、どうぞご協力をお願いいたします。また、子育てでご不安なことがございましたら、担任の先生にお知らせください。力を合わせて、子どもたちを育てていきましょう。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「小説の効用」

先週、2学期を前に職員会議が行われました。その中で、キリスト教保育について学びを共にし、保護者のみなさんと職員とのコミュニケーションが、子どもたちにとってどんなに大切かということに改めて気づかされました。そのことは、すでに保護者の方々もお気づきのことだと思います。保育は、先生と子どもたちの間でのみ行われるのではなく、お父さん、お母さんと先生とのやり取りを含めて成り立っているのです。しかし、一口にコミュニケーションといっても難しい側面もあります。その場の状況やその時の気分で、大切なことを言えなかったり、反対に言わなくてもよいことを言って失敗することもあるのが私たち人間の現実です。保護者の皆さんも先生たちも、幼稚園の中で少しずつ経験を重ねて対話上手になっていければいいなと願っています。すべては大切な子どもたちの育ちのためです。

私の経験からいうと、小説をじっくり読むとコミュニケーションに役立つ気がします。ただし、ホラー小説でもよいかというとそうではなく、文学としての小説です。私は初めて川端康成の『雪国』を読んだ時、こんな美しい日本語があったのかという感動と、登場人物たちの繊細な言葉のやり取りに息をのみました。正確で優しく、相手への敬意があり、ついでにユーモアのある会話ができると、不思議と気分がよくなり、力が湧いてくるのを感じます。大人同士がそのような関係になれば、おのずと子どもたちにも伝わっていくのではないのでしょうか。2学期の歩みに神さまの祝福がありますように。

チャプレン 司祭 下澤 昌